



日本で初めての記念切手は、どんなものなの

明治天皇の銀婚記念に

日本で初めての記念切手は、1894(明治27)年に発行された「明治天皇銀婚」です。明治天皇は、1868(明治元)年に即位されました。現在の天皇陛下の曾祖父(ひいおじいさん)にあたる方です。江戸幕府が終わり、新しい明治政府ができた激動の時代で、日本の新しい国造りのために、努力されました。

銀婚とは、夫婦が結婚して25年たったことをいいます。これを記念して、行うお祝いを銀婚式といいます。これは、もともとヨーロッパから伝わった習慣ですが、今では、日本でもお祝いするようになっています。

日本の郵便制度を作った前島密

日本の郵便制度を作った人は、前島密(1835~1919)という人で、「近代郵便の父」といわれています。

前島密は、郵便制度調査のため、イギリスに出張しました。そして、1871年4月20日(旧暦の明治4年3月1日)から、それまでの飛脚制度に代わって、新式郵便をスタートさせました。

このとき、郵便を出すのに必要な郵便切手4種類も発行されました。日本最初の切手の図案は、雷紋と七宝の模様でふちどられた中に、向かい合った二ひきの竜が描かれていました。そのため、この切手は、「竜切手(竜文切手)」とよばれています。

次の年には、通貨制度の変更にもなって、同じ図案で、目打ち(まわりのぎざぎざ)の入った切手が発行されました。(監修・青木 国夫)

